

白浜古賀の井リゾート&スパ

和歌山県・白浜温泉

丘の上のロケーションを生かすことも 温泉とプールの二体利用で 新時代のリゾートを創造

カラー20頁

札幌市に本拠を置き、温泉旅館からビジネスホテルまで手掛けるカラカミ観光が昨年度に和歌山県・白浜地区の事業を再編。2015年12月22日、「コガノイベイホテル」を「白浜古賀の井リゾート&スパ」（172室）と改称し、リニューアルオープンした。

同社は白浜地区で「ホテル川久」（85室）、「白浜シーサイドホテル」（91室）、「ホテル古賀の井」（103室）、そしてコガノイベイホテルの4館を運営。そのうち、ホテル古賀の井と白浜シーサイドホテルは1961年の建築で、旧耐震基準をクリアするために相当の投資が必要なこ

とから、昨年9月の段階で閉館を決定し、残る2館に経営資源を集中することにした。その後、白浜シーサイドホテルは買い手が現れて売却され、ホテル古賀の井は今年3月末に閉館している。

残る2館のうち、コガノイベイホテルが白浜の老舗ブランド「ホテル古賀の井」の名称を受け継ぎ、浴場やプールを改装。2016年4月29日に「ビュッフェレストラン」「コンカドローロ」をオープンし、新しい時代の温泉のあり方を提案する。白浜古賀の井リゾート&スパとしてスタートした。

昨年ホテル開業50周年を迎え、長きにわたり温泉リゾート事業をリードしてきたカラカミ観光が時代の変化に対応すべく打ち出した計画で、各施設の劣化に伴い、順次整備を進めている。同社取締役執行役員 営業統括本部兼白浜地区統括の川地幸人は次のように話す。

「従来のように温泉さえあればそれでいい、という時代ではなくなっています。私たちは夢を届けるビジネスですから、白浜温泉ならではのリゾート&スパの実現をめざしました。『より楽しく！より美味しく！より心地よい！』をキーワードに、白浜温泉の景観を最大限に生かす浴場、

「リゾート&スパ」を掲げて同社が進めている新たな温泉リゾートは、2年前にリニューアルオープンした北海道・洞爺湖温泉「洞爺サンパレスリゾート&スパ」（453室）が先駆けとなる。

**大浴場とプールを一体化し
リゾート性を高める**

白浜古賀の井リゾート&スパは高い丘の斜面に立地し、地上10階・地下2階建て。1階がエントランス、2階以上が宴会場や客室などで、地下1階と地下2階に大浴場や室内プールを配置している。1階のレストランに隣接する庭に屋外プール、その下の地下2階に室内プールと浴場があるという構造になる。

今回改装したのは1階のレストラン、バーエリアと、地下1階と地下2階のプールと浴場エリアだ。まずプールと浴場エリアを見てみよう。

地下2階の室内プールは13m×6mの規模。天井から自然光が差し込み、水辺に配したテラスを設けた開放的な空間で、プールサイドにはジャグジーバスの他、ダブルサイズ

やシングルサイズのデイベッドを配置。無料のドリンクカウンターを備え、大人のリゾートを演出している。改装では、従来はプールと分離されていた男女大浴場を一体化。プールから浴場へ行くという動線に変えることで、プールと温泉を同時に楽しめるという流れにし、快適度を向上。のみならず、エステサロンやマッサージコーナーも同フロアに集約し、連動感のあるスパゾーンとして整備した。さらに、湯上り処にあたる「リビングラウンジ」を新設し、癒しを提供するスパゾーンの強化を果たしている。

プールと一体利用できる浴場は、男女大浴場をほぼ同じデザインとしており、男女入れ替えはしない。いつでも安心して入浴できる空間としており、これが実に秀逸の浴場となっている。

露天風呂は、水盤に浮かぶ浴槽を深さ120cmの立ち湯「深湯」として。入浴すると視線が目の前に広がる田辺湾の海と一体化するといった趣向だ。絶景が広がる日中に対し、夜はライトアップして幻想的なムードを演出する。内湯は「浅湯」と名付けた半露天風呂。こちらにも浴槽から

露天風呂越しに田辺湾の海を存分に楽しめる。改装では、眺望を阻害しないよう入浴客の視線を意識し、露天風呂への動線を壁側に寄せて洗いや更衣に別設した。空調を取り付け、寒い日は暖房が入るようにしている。また、カランは従来の倍となる20口に増やした。川地氏は話す。

「リゾート&スパですから、プールと大浴場を別々に利用してもらおうではなく、プールでリゾートを感じていただき、その後に開放感のある景観の温泉大浴場で寛いでいただく、という考えの下で改装を行ないました。その上で、「丘の上のホテル」という田辺湾を一望できるロケーションの良さを打ち出し、入浴するお客さまの視線を意識したので。浴槽のどこからでも田辺湾を見渡すことができ、入浴すれば海と一体化する

ようなリゾート感あふれる浴場に生まれ変わったと思います」

渡り廊下を地下1階に上がったところに新設したリビングダイニングは、ゆったりとしたソファやテーブルなどを配置し、お茶やジュースなどが無料で飲める。家族客や2名客などが入浴後の待ち合わせをしたり、温まった身体をゆつくりと休める宿泊客の姿も多い。

エステサロン「SALON DE ESTHE」は地元の業者が運営。個室の施術室2室を設ける。「眼精疲労」や「リフレクソロジー」など、30分・3500円と手軽な価格から利用できるのが特徴だ。同店では月替わりのサービスコースを設け、広く利用をアピール。6月は、入浴と40分コース（好きなコースを選べる）を組み合わせた商品を5000円（通常6200円）で提供したところ、大好評。これまでエステを利用したことのない年配男性などの利用もあり、1カ月で他のコースも含めて約200名の利用があり大盛況だった。

効果を実感したという声が増えた」（エステスタッフ）と、温泉とトリートメントの相乗効果も表れているという。

大浴場の営業時間は6時～10時、14時～24時。日帰り入浴もでき、料金は大人1200円。室内プールは8時～9時30分、14時～21時の営業で、こちらも大人2000円（入浴料込み）で日帰りが利用できる。いずれも宿泊客は無料だ。

**「食」のレベルアップで
集客力を強化**

改装のもう一つの柱が「食」である。1階に全260席という壮大なビュッフェレストラン「コンカドローロ」を整備した。隣接するバースペースも含めてレストランを拡張し、全面ガラス張り田辺湾のロケーションを大きく取り込んだ開放的な設計となっている。窓の外には屋外ガーデンプールが見え、夜ともなれば30万個のイルミネーションが点灯し、光の海が目に見える。

店内は白を基調に、料理が映える内装でまとめた。客席はプッフエカウンターにもっとも近いフロントエリア、カウンター席を中心としたア



カラカミ観光取締役執行役員 営業統括本部 兼白浜地区統括 川地幸人氏

この改装にはもう一つ狙いがある。客室数とレストランの席数とに整合性を持たせ、客室を売りやすくすることである。これまで客室数172室・約400名収容に対して、レストランの席数は約200席しかなかった。つまり満室になった場合、スムーズな食事提供が難しいことが課題にあった。これまでは宴会場などで対応していたというが、それではコンセプトの「より美味しく」とはならない。そのため客室稼働率が低く、売上げも思うように上がって

いかなかったというわけだ。

今回でコンカドローロと神島の席数を合わせると約300席強となり、プッフフェレストランが誕生したことで、満室でも対応可能になる。さらに昼の外来需要や、観光バスの乗り入れ、他施設の素泊まり客などの受け入れなど、幅広い利用を開拓でき、売上増の要となる改装といえよう。

そして今回、ニーズの変化に対応し、リゾート&スパという新たなリゾートスタイルへの変貌を遂げた。総投資額はプールや大浴場、レストラン改装を含め、約5億円となる。

昨年のオープン以降、反響は大きく、従来顧客をはじめ、ファミリー客や2名客、海外客もアジアを中心に増えてきている。

「確実に客層が拡大し、4、5、6月の館内は昨年とはまったく異なる客数で賑わいました」

と川地氏は話す。4月にレストランがオープンし、5月にテレビで紹介された影響で、6月は連日満室が続くという状況である。平均宿泊単価も上がっている。同館は最大500名収容の宴会場があることから、

イランドエリア、劇場型に段差を設けたセンターエリア、そしてガーデンプールに臨むテラスエリアと、多彩なゾーニングだ。

「料理はでき立てが一番」（川地氏）との言葉の通り、8名の料理人が目の前で調理するライブキッチンを設けており、造りや肉料理、ピッツアなどのでき立て、焼き立ての料理を提供する。プッフフェラインは3列に分け、和洋中のメニューやデザートなど約100種類が並ぶ。食器や照明、セッティングなどにも工夫を凝らし、高級ホテルのプッフフェのような豪華さで、五感に響くプッフフェとなっている。同社は北海道におけるプッフフェレストランのバイオニア的な存在で、プッフフェ料理の宿として評価されている。そうした実績から、「プッフフェレストランは当社の得意とするところ」と川地氏が言う通り、その完成度は高い。

この改装にはもう一つ狙いがある。客室数とレストランの席数とに整合性を持たせ、客室を売りやすくすることである。これまで客室数172室・約400名収容に対して、レストランの席数は約200席しかなかった。つまり満室になった場合、スムーズな食事提供が難しいことが課題にあった。これまでは宴会場などで対応していたというが、それではコンセプトの「より美味しく」とはならない。そのため客室稼働率が低く、売上げも思うように上がって

いかなかったというわけだ。

今回でコンカドローロと神島の席数を合わせると約300席強となり、プッフフェレストランが誕生したことで、満室でも対応可能になる。さらに昼の外来需要や、観光バスの乗り入れ、他施設の素泊まり客などの受け入れなど、幅広い利用を開拓でき、売上増の要となる改装といえよう。

そして今回、ニーズの変化に対応し、リゾート&スパという新たなリゾートスタイルへの変貌を遂げた。総投資額はプールや大浴場、レストラン改装を含め、約5億円となる。

昨年のオープン以降、反響は大きく、従来顧客をはじめ、ファミリー客や2名客、海外客もアジアを中心に増えてきている。

「確実に客層が拡大し、4、5、6月の館内は昨年とはまったく異なる客数で賑わいました」

と川地氏は話す。4月にレストランがオープンし、5月にテレビで紹介された影響で、6月は連日満室が続くという状況である。平均宿泊単価も上がっている。同館は最大500名収容の宴会場があることから、

近づくにつれて、ホテル川久も、7月18日に田辺湾を一望できる露天風呂を中心に、大邸宅のリビングをイメージした温泉サロン「ROYAL SPA」ロイヤルスパ」をオープン。既存浴場のリニューアルも併せて総工費約5億円という贅沢なスパ空間を創造している。これに先立ち、7月9日には愛犬と宿泊できるスイートルームを含むプレジデンスイートルームを含むプレジデンスイートルーム（180㎡×274㎡、計7室もオープンしており、一層の高級化を推進。ホテル川久の平均宿泊単価はさらに上昇しており、白浜古賀の井リゾート&スパとの棲み分けが進んでいる。

●白浜古賀の井リゾート&スパ 概要

| | |
|--------|---|
| 住所 | 和歌山県西牟婁郡白浜町3212-1 |
| 電話 | 0739-43-6000 |
| 所有 | カラカミ観光株 |
| 経営 | 運営：カラカミ観光株 |
| 開業 | 1992年7月 (2015年12月22日リブランド) |
| 敷地面積 | 2万1310㎡ |
| 延床面積 | 1万4917㎡ |
| 客室数 | 172室（約400名収容） |
| 主な付帯施設 | 男女大浴場、オープンテラス付き室内プール、ガーデンプール、エステ「SALON DE ESTHE」、ビュッフェレストラン |

レストランはその他、隣接して日本料理店「神島」があり、宿泊客の夕食と朝食はこの2店舗で対応する。コンカドローロの利用料金は夕食が大人6000円（税別、以下同）、朝食が同1800円。宿泊客以外も利用できる。

同社は約50年の歴史で蓄積されたノウハウを生かし、次々と課題を解決してきた。その一つが、今や同館の名物になっているイルミネーション

「リゾート&スパ」を掲げて同社が進めている新たな温泉リゾートは、2年前にリニューアルオープンした北海道・洞爺湖温泉「洞爺サンパレスリゾート&スパ」（453室）が先駆けとなる。

**大浴場とプールを一体化し
リゾート性を高める**

白浜古賀の井リゾート&スパは高い丘の斜面に立地し、地上10階・地下2階建て。1階がエントランス、2階以上が宴会場や客室などで、地下1階と地下2階に大浴場や室内プールを配置している。1階のレストランに隣接する庭に屋外プール、その下の地下2階に室内プールと浴場があるという構造になる。

今回改装したのは1階のレストラン、バーエリアと、地下1階と地下2階のプールと浴場エリアだ。まずプールと浴場エリアを見てみよう。

地下2階の室内プールは13m×6mの規模。天井から自然光が差し込み、水辺に配したテラスを設けた開放的な空間で、プールサイドにはジャグジーバスの他、ダブルサイズ

改装のもう一つの柱が「食」である。1階に全260席という壮大なビュッフェレストラン「コンカドローロ」を整備した。隣接するバースペースも含めてレストランを拡張し、全面ガラス張り田辺湾のロケーションを大きく取り込んだ開放的な設計となっている。窓の外には屋外ガーデンプールが見え、夜ともなれば30万個のイルミネーションが点灯し、光の海が目に見える。

店内は白を基調に、料理が映える内装でまとめた。客席はプッフエカウンターにもっとも近いフロントエリア、カウンター席を中心としたア